

令和3年度 郡市医師会 看護学校（院）担当理事・教務主任合同協議会

と き 令和3年6月3日（木）15:00～16:30

ところ 山口県医師会6階大会議室

[報告:常任理事 沖中 芳彦]

開会挨拶

河村会長 いよいよ新型コロナワクチン接種が本格的に始まったが、看護学校の生徒の実習先によっては、実習生のワクチン接種や、PCR検査の義務付け等を要件とされる状況があり得るので、これらについて、各医師会及び各学校で連携を取る必要がある。本日は活発に情報交換をしていただき、中身の濃い協議会になるようお願い、挨拶とする。

報告事項

- 1 第51回中四九地区医師会看護学校協議会はコロナ禍により中止。
- 2 第52回中四九地区医師会看護学校協議会は、本年8月1日（日）に「看護基礎教育の変革の時代を迎えて」をテーマにオンラインで開催される。引受けは高松市医師会看護専門学校。

協議事項

1 学校（院）の運営状況について

「令和3年度看護学校（院）に関する基本調査」の結果について報告。

①各学校（院）の応募者等について

准看護師科では防府看護専門学校、萩准看護学院が減少傾向にある。一方、宇部看護専門学校、吉南准看護学院がやや増加に転じている。看護師科では防府看護専門学校が減少、宇部看護専門学校はやや増加に転じている。

②卒業生の状況等について

准看護師科

准看護師科は卒業生151人うち83人（約55%）が就業している。ちなみに、前年の割合は45%であった。また、ほとんどの方が県内に就業して

おり（83人中81人）、市内への就職も多い（62人）。進学された方は卒業者数全体の約42%である。卒業したものの就業していない人や看護職以外の職種に就職された人が5人存在することは問題である。

看護科

卒業生153人のうち、137人（約90%）の方が就業している。就業した方のうち、県内就業した方は125人（約91%）となっている。また、「看護職以外の就職」が3人、「就職していない」が12人存在する。

③国家試験、准看護師試験の合格状況について

准看護師課程では令和元年度は2名の不合格者があったが、令和2年度は全員が合格であった。看護師課程では15名の不合格者があった。各校から「合格率アップのための具体的な対策」が提出されており、過去問対策、模擬試験や強化チームで個別に指導されているところもある。

④受験者数減少への対策について

本年度受験者にアンケート調査「医師会立看護学校（院）の生徒募集の情報を何で知りましたか」を実施したところ、「看護学校（院）のホームページ」との回答が多く37%、次いで「家族、友人、知人等からの紹介」が24%、「出身校からの紹介」が13%となっている。そのため、各学校（院）のホームページの充実が求められるが、同時に学校訪問、学校説明会やオープンキャンパス等の効果が見て取れる。本会では、後述する「県医師会の取り組みについて」にあるとおり、「医師会立看護職員養成所PRのための広報」として、TVCM（15秒）を民放で160本放映する予定であり、今後もその効果検証を行いながら応募者増につながる対策に力を入れていく。

2 山口県の取り組みについて(山口県医療政策課)

令和3年度看護職員確保対策事業については
図(次頁掲載)のとおり。

3 県医師会の取り組みについて

医師会立看護学校(院)の安定した運営を目的に、以下各種支援を行うほか、コロナ禍による感染防止対策及びリモート授業等における支援を計画する。

- (1) 郡市医師会看護学校(院)担当理事・教務主任合同協議会の開催
- (2) 医師会立看護職員養成施設への助成
- (3) 医師会立看護学校(院)に関する基本調査の実施
- (4) 医師会立看護職員養成所問題への対策
- (5) 中四九地区医師会看護学校協議会への出席
- (6) 都道府県医師会看護問題担当理事連絡協議会への出席
- (7) 山口県実習指導者養成講習会受講者への助成
- (8) 日本准看護師連絡協議会へ賛助会員としての加入
- (9) 医師会立看護職員養成所PRのための広報
- (10) オープンキャンパス開催時の助成(応募者

増加のための支援)

- (11) 准看護師を対象としたスキルアップ研修会の開催時の助成
- (12) 医師会立看護学校課題対策検討会の開催
- (13) 中四九地区医師会看護学校協議会への学校(院)年会費の助成
- (14) 看護教員養成講習会の通信受講者の支援
- (15) 医師会立看護職員養成所の新型コロナウイルス感染防止対策等への支援

4 郡市医師会、看護学校(院)からのご意見
ご要望

(1) 学生数の確保について

- ① 新入生の学生数の確保について協議願いたい。
【宇部看護専門学校】
- ② 応募者、入学者の減少が顕著であり、学校存続の危機(特に看護科)にある。医師会立の看護学校の今後をどう考えておられるか協議願いたい。
【防府看護専門学校】

学校間の統廃合については、全体での協議は一区切りとし、今後は必要に応じて各学校と個別に協議する予定である。

なお、平成20年からの(14年間の)応募者数推移では、(山口県の)少子化がマイナス20%

出席者

郡市担当理事及び教務主任

玖珂理事	川田礼治	徳山副会長
熊毛郡理事	齋藤良明	徳山教務部長
吉南担当理事	嘉村哲郎	防府学校長
吉南教務主任	岩城愛香	防府教務主任
下関市担当理事	山下智省	防府教務主任
下関市教務主任	中司冷子	下松理事
宇部市担当理事	藤野隆	岩国市副会長
宇部市副マネージャー	安平秀行	光市理事
宇部市教務主任	村岡和美	柳井理事
宇部市教務主任	林純子	長門市理事
山口市副会長	林大資	美祢市会長
萩市理事	若松研弥	
萩市教務主任	中村幸恵	

山口県健康福祉部
医療政策課

課長 土屋佳彦
看護指導班班長 佐野佐恵美

山口県医師会

会長 河村康明
副会長 今村孝子
副会長 加藤智栄
常任理事 沖中芳彦
理事 上野雄史
理事 茶川治樹
理事 縄田修吾

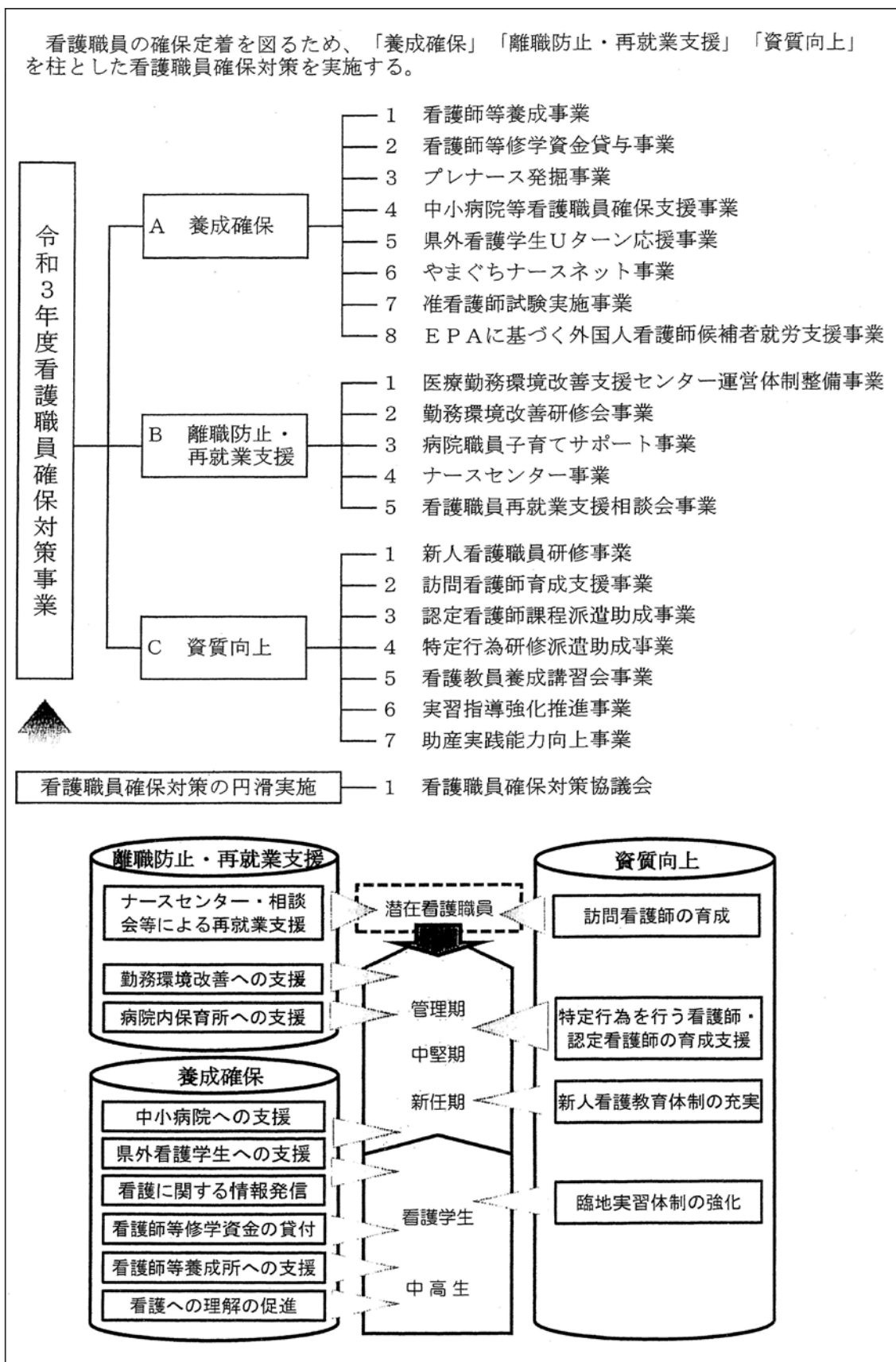


図 令和3年度の看護職員確保対策事業（県医療政策課作成）

進んでいることに対して、応募者数はマイナス40%を超えていることから、減少の要因が少子化とは見て取れず、また、大学（看護学部）の応募者数も近年は減少していることから、（大学との）競合が要因との見方もできないところである。

③県外に就職した看護師に対して、その動機について調査（アンケート等）を実施したことはあるか。 【光市医師会】

県行政：平成29年7月に、看護学校卒業生に対して「どのような理由で県外へ就職したか」を問うアンケートを実施した。その結果は以下のとおりである（回答の上位3例）。

- ア 大規模施設があるため。
- イ 臨床経験、スキルアップの観点から、県外の医療体制に興味があるため。
- ウ 給与、福利厚生等、勤務条件がよいため。

(2) 教員確保等について

①県内医師会立看護学校の教育内容や教育設備に差が出ないように、講師やアドバイザーなどの紹介、実習施設の紹介などをしてもらえるとありがたい。 【吉南准看護学院】

②看護現場を離れ、看護師養成に携わってもらえる人材の円滑な確保に向けて、専任教員の登録システム、教員養成講習会時の人的援助など財政支援を含めた仕組みづくりを検討したい。

【萩准看護学院】

医師会立以外も含めた「看護学校」全体における（質問のような）問題について、山口県看護協会から「山口県実習指導強化推進事業」（県委託事業）として、「実習指導者と看護教員の相互研修」、「アドバイザー派遣事業」等についての研修会（8月～12月）が実施されることとなったので利用したい。

(3) コロナ禍での実習のあり方について

コロナ禍での実習のあり方に苦慮している。学内実習、リモートだけでは十分な教育ができない

ことについて協議願いたい。【防府看護専門学校】

各校とも臨地実習の不足に苦慮している状況にある。

(4) 看護学生等に対する新型コロナワクチン接種について

①県では、すべての高校生を対象に約2億円を投じてPCR検査を実施すると報道されているが、それより、実習に出られない看護学生及び教職員への新型コロナワクチン接種を早急に実施願いたい。 【徳山看護専門学校】

②新型コロナワクチンの看護学生や教員への早期接種時期を明確にしてほしい。 【萩准看護学院】

既に新型コロナワクチン接種を受けた学校（実習生）もあることから、（同接種の実施主体である）郡市医師会から市町に対し強く要請願いたい。県行政も同様の見解であり、必要に応じて県医師会も要請に協力していく。

(5) 補助金関係

①統合・閉鎖等による学校数の減少により、補助金額の検討が必要。 【宇部看護専門学校】

② 補助金の継続について

①厚労省ICT等の整備事業費補助金を継続願いたい。 【宇部看護専門学校】

②「新型コロナウイルス感染症防止対策に関する支援金」（山口県医師会）をコロナ収束まで継続願いたい。

【宇部看護専門学校・柳井准看護学院】

行政関係の補助金の継続については国の規定が関係することから難しい。県医師会からの支援策については検討課題として対応する。

5 その他

毎年作成している次年度入学生募集のためのポスターの製作を今年度も行う。